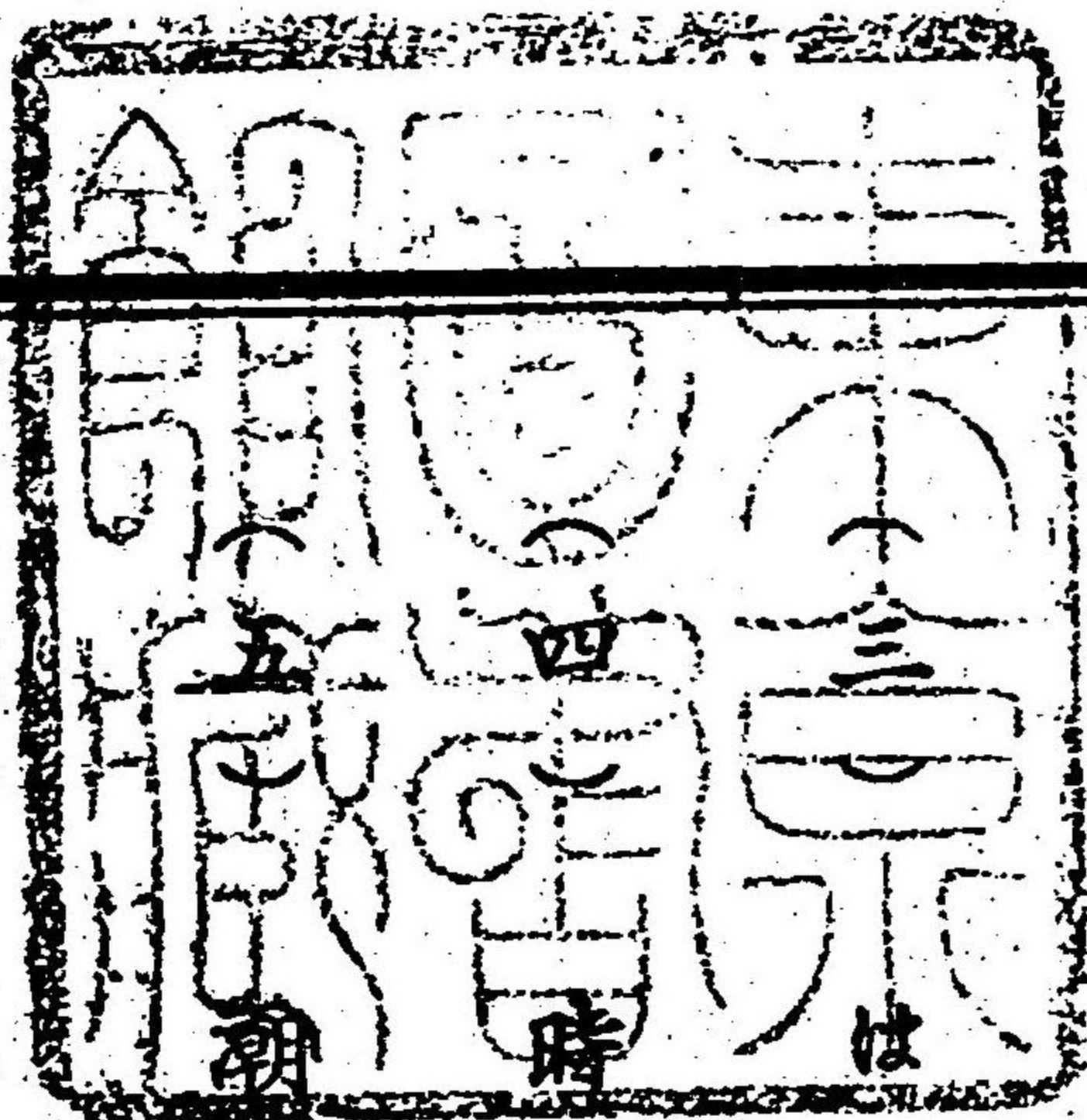


作文教案尋常科第三學年

目次

- (一) 手紙
人を招く口上
- (二) 状袋
筒を贈る口上
がま口上
訪問知らせの口上
- (三) 時計
時計のおほしを頼む口上
- (四) 干がり
干がりを頼む口上
- (五) 貝を贈られし禮の口上
- (六) かき(鱈)
手紙一通の請取証
- (七) カタツアリ
白墨一箱の届方を頼む口上
- (八) 茶



(九) 鐵瓶 頼みたる品を問合はする口上

(十) 蒸瀧車 直したる時計を届くる口上
荷車を借る口上

(十一) たらひ 貸したる荷車を催促する口上

(十二) 單物 單物の仕立を頼む口上

(十三) 義家 仕立てたる單衣を届くる口上

(十四) 朋友 シヤボン一箱を取寄する口上

(十五) 父母 物を贈られし禮の口上

(十六) 銅 金五圓の請取証

第一週 第一時 (第一回)

一題目 手紙

一作例

手紙は、用事を書き認めて、人に送るものなり。

用事、書き、認め、送る。

(注) 凡テ讀本卷ノ四ノ終ニ在ル文字ナリ
認めて、ノ用方及ビ、あり、ノ結尾ニ就キ能ク會得セシムルヲ要ス
手紙ハ次ノ時間ニ於テ手紙トイフモノヲ書キ認ムルヲ稽古スベシト
意ヲ告ケ置クベシ

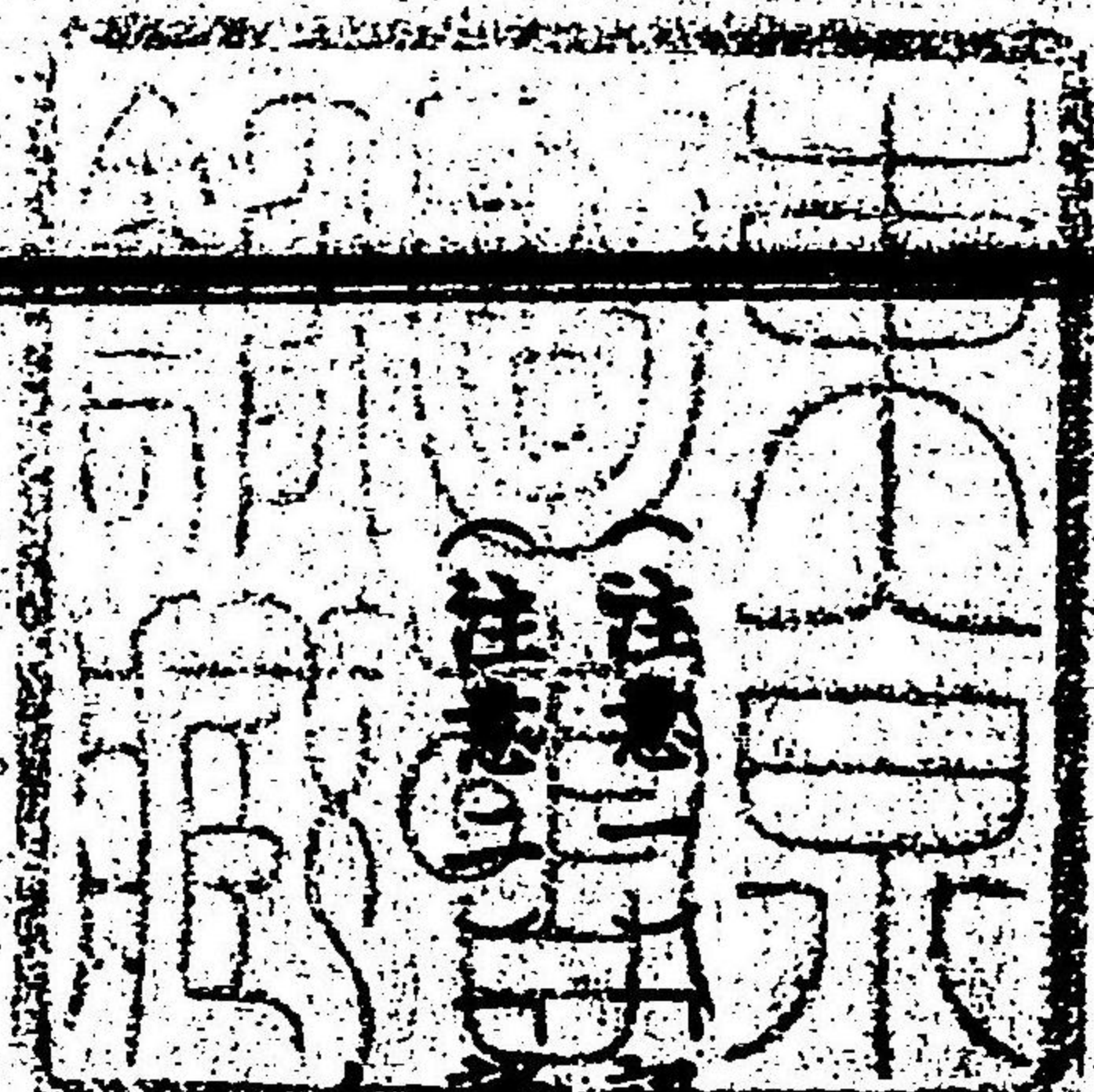
第二時 (第二回)

一題目 人を招く口上

一作例

明日御あそばしに御出でくだささい

明日、御出、



(注意)「御」字ヲ説明シテ自他ノ別及ヒ敬稱タルヲ知ラシムルヲ要ス
(注意) 已レノ名ト宛名ト月日トハ必ず記入スルモノタルコトヲ教ユ、以下本紫ニ
於テハ繁ヲ避ケテ之ヲ略ス

第三時 (第三回)

一演習

- (一) 左ノ文ニ填字セシム
筆〇字を〇〇又画を書く〇〇〇〇
(二) 「ケフ、ヒマナラ、キテクダサイ」ト云フヲ云ヒ送ラントス、左ノ文ニ填字シテ
之ヲ成スベシ
〇〇〇〇ひまならば〇〇〇〇くごさい
(注意) 本演習ハ主トシテ「書き」「書く」「ものあり」及ビ「御」字ノ練習ヲ爲サシメ
ントスルニ在ルガ故ニ時間ニ餘裕アラバ猶他ノ類例ヲ演習センヲ要ス

第二週 第一時 (第四回)

一題目 状紙

一作例

状紙ハ紙ニテ作り手紙ヲ入レテ人ニ送ルモノナリ
(本題ハ考案、用字共ニ簡單ナルヲ以テ自作的方法ヲ用ヒントス)

第二時 (第五回)

一題目 物を贈る口上

一作例

筭一かご差上申候
筭、差上、

(注意一) 前週讀了セシ讀書中ニ「魚一かご差上申候」ノ文アリ
(注意二) 「申候」ノ文字ハ本回始メテ教授スルモノナレバ丁寧及履其用法ヲ會得セ
シムルヲ要ス

第三時 (第六回)

一演習

- (一) ナマリトイフ題ニテ左ノ如キ文ヲ作ラシム

「きりぎりす」石ニテ作中ニテスルモノナリ

(二) びは一かごヲ贈ル口上ヲ書セシム

例「びは一かご差上申候」「びは一かごさし上候」

(三) 筆三本ヲ贈ル口上ヲ書ケ

(例略ス)

第三週 第一時 (第七回)

一題目 ちがき

一作例

はがきは短き用事を認めて人に送るものあり

短き (他ハ凡テ前週學ビタル文字ナリ)

(注意) 實物若クハ作文はがきヲ示シ其用法認方等ヲ授クルヲ要ス

第二時 (第八回)

一題目 訪問知らせの口上

一作例

明日午後より参上致もべく候。

(前週ノ習字科ニ「只今より参上致もべく候」ノ文アリ)

(注意一) 「より」ノ語意ヲ了解セシムベシ。「参上」ノ「上」ノ字ノ用方ニ付キ丁寧ニ説明スルヲ要ス。

明スルヲ要ス。

(注意二) 口語ニ於テハ「致候」「ト」致をべく候」トノ區別ヲ誤ルモノ多キヨリ生徒ハ上級ニ至ルモ文語ニ於テ動モスレバ此區別ヲ混同スルノ弊アリ他ノ類例ヲ設ケテ尤モ能ク之ヲ練習スルヲ要ス

第三時 (第九回)

一演習

(一) 左ノ文ニ填字セシム

○○用事は、ちがき○○○○、之を○○○。

(二) 左ノ二口語ヲ復文セシム

(1) ケフ、カンダへ、マナリマシタ(今日神田へ参り候)

(2) コンヤ、オタクへ、マナリマセウ(今晚御宅へ参上致もべく)

く候。

(注意) 本演習ハ主トシテ「参り候」「参上致さべく候」ノ列ヲ練習セシムルニ在ルヲ以テ稍前週授ケタル「差上申候」ニ就キ他ニ「差上申をべく候」ナル例ヲ教ケテ練習スルヲ可トス

第四週 第一時 (第十回)

一題目 時計

一作例

時計ハ、時ヲ見ルモノニテ、懐中時計ト、柱時計ト、二種アリ。

見ル、懐中、柱、

(「懐中」ナル文字ハ既習ノ讀本及ヒ習字帖中ニ存在セズ)

(注意) 「ニテ」及「二個ノ」ト「字」ヲ注意シテ了解セシムベシ

第二時 (第十一回)

一題目 時計の直しを頼む口上

一作例

此時計明後日までに御おほし下されたく候。

(注意一) 「此」ナル文字ノ用方意義ヲ會得セシムルヲ要ス

(注意二) 「下されたく候」「トイフ文語ハ始メテ用フルモノナルヲ以テ初メハ只「御を

ほしください」「ト口語ノ儘ニ書セシメ而メ後手紙ニテハ斯ル文語ヲ用フ

ベキヲ説キ他ノ類例ヲ示シテ能ク會得セシムルヲ要ス

第三時 (第十二回)

一演習

(一) 左ノ文ニ填字セシム

時計ニハ○○○時計○○○時計○○○二種アリテ共ニ時ヲ○

○○○○○
懐中

(二) 左ノ二口語ヲ復文セシム

ケフ、キテ、クグサイ、(今日御出で下をまたく候)

アスノ、バンマデニ、マキリマス、(明晩までに参上致すべ
と候)

第五週 第一時 (第十三回)

一題目 潮干がり

一作例

海水の干る時、「貝を拾ひ」、「魚をとらふる」を、「潮干がりせ
いふ」。

「」ヲ付セルハ讀本中ノ成語

海水、貝、拾ひ、(皆讀本中ニ在リ)

第二時 (第十四回)

一題目 貝を贈られし禮の口上

一作例

見事の貝御贈り下され有りがとと存じ候。

(前週ノ習字帖中「見事の品有りがたく存じ候」ト云フ文アリ)
見事、有りがとと、存じ候、
(注意)「見事」及「存じ候」ノ意義ヲ會得セシムルヲ要ス
第三時 (第十五回)

一演習

(一) 左ノ口語ヲ後文セシム

シホヒガリニユキ、スサノウヘヲ、アルイテ、カイヲヒロヒ、ミツタマリヘ、
ハイッテ、サカナヲトルナド、ナカナカオモシロイモノデ、アリマス。

(潮干がりにゆき、「すおの上を歩きて、貝を拾ひ、水たまりに入りて、魚をと
らふる」など、「なかく」おもしろさものあり)。

「」ハ讀本中ノ成語ナリ

(注意)「なかく」「」ノ使用法ヲ注意スベシ

(二) 筒ヲ贈ラレシ禮ノ口上ヲ書セシム

(見事の筒御贈り下され、有りがたと存じ候。)

(三) 左ノ口語ヲ後文セシム

キノフハ、キテクダサッテ、アリガタフ、ザンジマス

(昨日は御出で下され有がたく存候)

第六週 第一時 (第十六回)

一題目 かき(蠣)

一作例

かきは「海中にすむ」真にて「肉うまくして」養分多し。

(「」ハ讀本中ノ成句)

海中、肉、養分、(皆讀本中ニ在リ)

第二時 (第十七回)

一題目 手紙一通ノ請取証

一作例

証

一手紙

壹通

右正ニ請取候也

月日

姓

名

印

宛名

(前週習字帖中「御届下され正ニ請取候也」ノ文アリ)

(注意)

本題ハ始メテ教授スルモノナレバ各文字ノ位置、体裁、及ヒ「」候也」等ニ付キ尤精密ニ會得セシムルヲ要ス

第三時 (第十八回)

一演習

(一) 前週ノ「かき」ノ文全部ヲ書カシム

(二) 漢中時計壹個ノ請取証ヲ編メシム

(注意)

本題ハ各生徒ノ書シタルモノヲ一々點檢シテ文字ノ位置書体等ノ誤謬ヲ精密ニ正スヲ要ス

第七週 第一時 (第十九回)

一題目 カタツブリ

一作例

カタツブリハ貝ニ似タルモノニテ背ノ上ニカラアリ、モ
ノニオツル、時ハ其中ニカクル
似タル、背ノ上、(昔ノ字讀本中ニナシ)

第二時 (第二十回)

白墨壹箱ノ届方ヲ頼ム口上

一題目
一作例

白墨壹箱明晩まで御届下され度候

(注意) 本題ハ前週習ヒタル習字帖中ノ「石油壹箱御送り下され度候」ト其前ニ習ヒ
タル「御届下され正ニ請取候也」トヲ應用シテ作ラシメントス

第三時 (第二十一回)

一演習

(一) 口語ヲ述ベテ左ノ文ヲ作ラシム

カタツブリノ歩ム時ハ、二本ノ角ヲ出ダシ、背ノ上ニカラ

(二)

ヲオフ、モシ、モノニオツル、時ハ、カラノ中ニカクル、
口語ヲ述ベテ左ノ文ヲ作ラシム

(1) 昨日の時計明晩まで御届け下され度候
(2) 一昨日の時計今晚御届申すべく候

第八週 第一時 (第廿二回)

一題目 茶

一作例

茶ハ「茶ノ樹ノ葉」ヲツミトリテ製シ人ノ「飲料トシテ用フ
ル」モノナリ

(「」ハ讀本中ノ成句)

樹、葉、製シ、飲料、(皆讀本中ニ在リ)

(注意) 「製シ」ト「作り」トノ用方ノ差異ヲ知ラシムベシ

第二時 (第廿三回)

一題目 頼ミタル品ヲ問ヒ合ハスル口上
一作例

昨日御頼み申置候品如何に候哉。

(前週ノ習字帖中「昨日御頼申候事如何に候哉」ノ文アリ)

(注意一)「申置候」ノ用方意義ヲ會得セシムベシ

(注意二)

事ヲ問フ文ハ始メテ教授スルモノナレバ「如何に候哉」ノ句ハ丁寧ニ了解

セシムルヲ要ス即チ初メハ先ヅ口語ニテ「ドウデスカ」ト記セシメ「カ」ノ

ハ「哉」ノ字ヲ以テ表彰スルヲ及「如何」ノ用方等ヲ反覆練習セシムルヲ

要ス

第三時 (第廿四回)

一演習

(一) 前回ノ茶ノ文全部ヲ書取ラシム

(二) 左ノ如キ文ヲ綴ラシム

(1) 昨晚御頼申候事如何に候哉

(2) 一昨日御頼み申置候時計如何に候哉

第九週 第一時 (第廿五回)

一題目 鐵瓶

一方法

本題ハ別ニ問答ノ法ヲ用ヒス直ニ生徒ヲシテ自ラ考察シテ作ラシメントス

一作例

鐵瓶ハ鐵ニテ作り湯ヲ沸カスニ用フルモノナリ

鐵、湯、沸カス、(皆讀本中ニアリ)

第二時 (第廿六回)

一題目 直したる時計を届くる口上

一作例

御注文の時計出来候間御届け申上候

(前週習字帖中「御注文の品出来候間差上候」ノ文アリ)

(本題ノ用字ハ頗ル容易ナルヲ以テ掲出セズ)

(注意一) 前週ノ演習ニテ練習シタル文ト對照シテ其差別ヲ知ラシムルヲ要ス

(注意二)「候間」ノ語ハ初メテ用フルモノナレバ其意義用方ヲ丁寧ニ授クベシ

第三時 (第廿七回)

一演習

(一) 左ノ文ニ填字セシム

蒸氣トハ湯ノ熱ニ○○○○スガタラ○○○○

(讀本中「湯氣ノ湯ノ熱ニ蒸サレテスガタラカヘタルモノナレバ之ヲ蒸氣

トイフ」ノ文アリ)

(二) 意義ヲ口演シテ左ノ如キ文ヲ作ラシム

昨日御頼みの品出来候間差上候

明日は日曜に候間御遊びに御出で下され度候

第十週 第一時 (第廿八回)

一題目 蒸氣車

一作例

蒸氣車ハ「蒸氣ノカヲ用ヒテ走ラスル車」ニテ、キクワン

車、荷車、客車ノ三ツアリ。

(「」ハ讀本中ノ成語)

荷車、客車、蒸氣、(皆讀本中ニ在リ)

第二時 (第廿九回)

一題目 荷車ヲ借ル口上

一作例

荷車一輛拜借致し度候

一輛、拜借、(ニヶ共ニ新文字ナリ)

(注意) 一輛ノ意義ヲ配キテ物ハ其種類ニ依リテ數ノ習ヘ方ニ差異アルヲ教ユルヲ要ス

第三時 (第三十回)

一演習

(一) 左ノ文ニ填字セシム

馬ノ○○○○走ラスル○○○馬車ト云フ

カク用ヒテ

キク

(二) 左ノ口語ヲ役文セシム

ニグルマ、一ツヲ、ウマニツデ、ヒイテ、フリマス
荷車一輛ヲ馬ニ頭ニテ挽キ居ル

(注意) コハ前回ニテ教ヘタル數量ノ唱ヘ方ヲ練習セシムルガ爲ナリ
(三)

机一脚拜借致し度候

第十一週 第一時 (第三十一回)

一題目 たらひ

一作例

たらひは、木と竹にて作り、衣服などを洗濯するに用ふる
ものあり。

衣服、洗濯、 (皆讀本中ニ在リ)

(注意) 「おど」ノ語ニ注意セシムベシ

第二時 (第三十二回)

一題目 貸シタル荷車ヲ催促スル口上

一作例

過日御用立置候荷車御返し被下度候

御用立、御返し、 (新文字)

(注意一) 前回ノ「御届」ト對照シテ「御返し」ノ意義ヲ會得セシムベシ

(注意二) 「下され度」ヲ本回初メテ「被下度」ト用フ注意説明スルヲ要ス

第三時 (第三十三回)

一演習

(一) 前回ノ「たらひ」ノ文全部ヲ讀書セシム

(二) 左ノ如キ文ヲ作ラシム

一昨日御用立置候時計御返し被下度候

第十二週 第一時 (第三十四回)

一題目 單物
一作例

單物ハ、一重ニヌヒテ、夏着ル衣服ナリ。
一重、着ル、

第二時 (第三十五回)

一題目 單衣の仕立を頼む口上

一作例

此反物單衣に御仕立願ひ度候
反物、願ひ、

第三時 (第三十六回)

一演習

(一) 左ノ語ヲ復文セシム

ヒトヘニヌツタ、キモノヲ、ヒトヘモノト、カクシマス、ナ

ツキルモノデ、カリマス。

(一重ニヌヒタル衣服ヲ單物ト云フ、夏着ルモノナリ)

(二) 左ノ如キ文ヲ作ラシム

過日御頼申置候單衣如何に候哉

第十三週 第一時 (第三十七回)

一題目 義家

一作例

八幡太郎義家ハ、源頼義ノ子ニシテ、名高キ大将ナリ。

八幡太郎、源頼義、名高キ、(皆讀本中ニ在リ)

第二時 (第三十八回)

一題目 仕立テタル單衣ヲ届ケル口上

一作例

先日御注文ノ單衣出来候に付持たせ上候

先日、持たせ上、

(注意一) 第九週ニ授ケタル口上ト對照スベシ

(注意二) 前四ノ「過日」ト對照シテ「先日」ノ用方ヲ授クベシ「に付」ハ始メテ授ルヲ
モノナレハ注意ヲ要ス

第三時 (第三十九回)

一演習

(一) 左ノ文ニ填字セシム

源義家ハ、大江匡房ニツキテ○○○○○「危キヲ○○○
○○○○○」。

兵法ヲ學ビ

レツリ。(「ハ讀本中ノ成語)

(二) 左ノ文ニ填字セシム

○○○御注文の時計出來候○○○、○○○○○候
ニ付持たせ上

第十四週 第一時 (第四十回)

一題目 朋友

一作例

朋友ハ兄弟ト同ジク「常ニ相愛シ相敬ヒ」「事アラバ」「カヲ
ツクシテ」「相助クベシ」

(「ハ讀本中ノ成語)

兄弟、相愛、相敬、相助、(讀本中ニ在リ)

第二時 (第四十一回)

一題目 シヤボン一箱ヲ取寄スル口上

一作例

洗濯しやばん一箱御遣し被下度候
洗濯、御遣し。

(注意) 「御遣し」ノ字始メテ用フ注意ヲ要ス

第三時 (第四十二回)

一演習

- (一) 左ノ如キ文ヲ作ラシム
兄弟ハ、同ジ父母ヨリ生マレタルモノナレバ、常ニ相愛シ相敬ヒ、事アラバカヲツクシテ、相助クベシ。
- (二) 左ノ如キ文ヲ作ラシム
石油壺箱御遣し被下度候

第十五週 第一時 (第四十三回)

一題目 父母

一作例

父母ハ、「ワレヲ生ミ、ワレヲツグテ」ハ、「人ト成シタルモノナレバ」考ヲ行ヒテ其ノ恩ノ萬一ヲムクユベシ。

(「ハ讀本中ノ成語」)

孝、恩、萬一。

(注意) 「モノナレバ」「人ト成シタル」等ノ語ノ用方意義ヲ會得セシムベシ

第二時 (第四十四回)

一題目 物を贈らばし禮の口上

一作例

結構ある品御贈り下され有りがたく御禮申上候

結構、御禮、(新文字)

(注意) 「御禮申上候」ノ語始メテ用ニ注意ヲ要ス前第五週ノ口上ト對照スベシ

第三時 (第四十五回)

一演習

- (一) 口語ニテ意義ヲ演ジ左ノ如キ文ニ讀ラシム
教師ハ、ワレヲ教ヘ、ワレヲミチビキテ、人ト成スモノナレバ、父母上同ジク、敬ヒタツトアベシ。
- (注意) 前四ノ父母ノ文ト對照シテ文語ノ用立ヲ練習セシムベシ
- (二) 前四ノ口上書全部ヲ讀書セシム

第十六週 第一時 (第四十六回)

一題目 銅
一作例

銅ハ「赤ヲ光レル金」ニテ「貨幣」及ビ「湯ワカシ、ヤクワン」ノ類ヲ造ルニ用フ

(「ハ讀本中ノ成語)

貨幣、湯ワカシ、ヤクワン、

(注意) 「及ビ」並ニ「ノ類」ノ用方意義ヲ會得セシムルヲ要ス

第二時 (第四十七回)

一題目 金五圓ノ請取証

一作例

証

一金^⑤五圓也。

右金額正ニ請^⑤取候也

(注意一) 第六週ノ受取証ト對照スベシ

(注意二) 金五圓ノ下「也」ノ字ノ用方及ビ「金額」ノ字義ヲ會得セシムルヲ要ス

第三時 (第四十八回)

一演習

(一) 左ノ如キ文ヲ作ラシム

銀ハ、白色ノ光アル金ニテ、貨幣及ビ、時計ユセワノ類ヲ作ルニ用フ。

(二) 金拾貳圓ノ請取証ヲ認メシム

(注意) 通常金額上ノ數字ニ用フル「壹、貳、拾」等ノ文字ノ用方ヲ會得セシムベシ

御覽

全 明治廿九年四月三日印刷
全 年四月十日發行

非賣品

京橋芝兩區代用小學校組合教養編纂委員

著述者

山梨縣平民

千葉喜作

京橋區東湊町一丁目一番地寄留

全

東京府平民

岡村大岡

京橋區本湊町十六番地

全

東京府平民

井上留三郎

京橋區永島町十三番地

印刷者

東京府士族

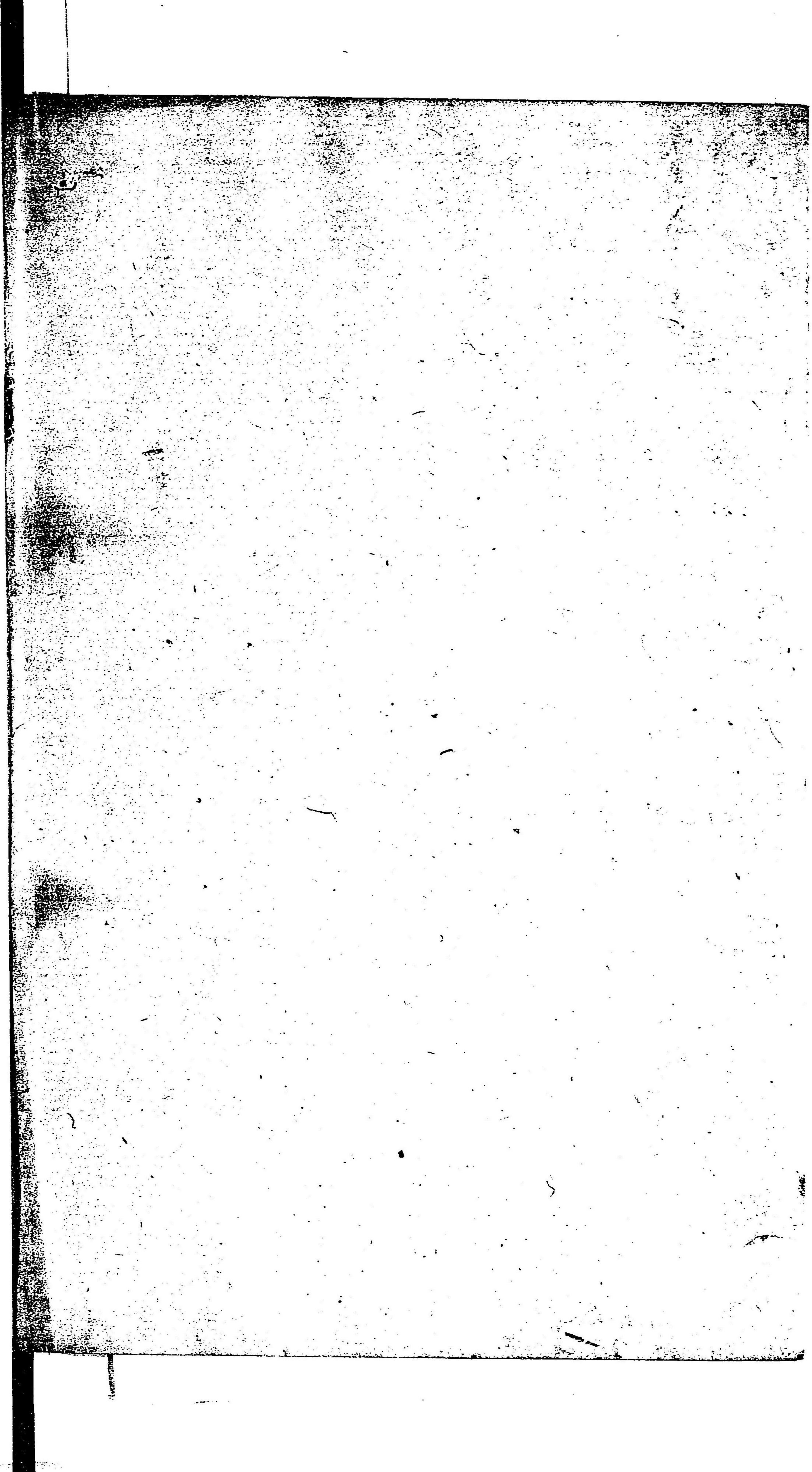
寺島由之

京橋區米女町二十一番地

印刷所

青山活版所

京橋區木挽町九丁目六番地



作文教案

尋常科第三年

特34

660